

令和5年度「学校自己評価(保護者評価)」アンケート結果

- ・回答数は192通で、全家庭数に対して70.0%の回答が得られた。
- ・評価は、4…当てはまる 3…少し当てはまる 2…少し当てはまらない 1…当てはまらない 0…わからないとした
- ・数値は、その評価をした件数を有効回答数(全回答数から「わからない」を引いた数)で割った数を百分率で表したものである。

実施内容	学校評価の観点		設問	評価(%)			
				4	3	2	1
【敬愛】 について 重点目標 自分を見つめ、願いを高めて集団づくりをしようとする基盤づくり	1	生徒が自分を語り、願いの質が高まる学級づくり・学校づくりを行う。	◆生徒が「学校が楽しい」と感じる学校になっていると思いますか。	41	38	14	7
	2	今の自分を見つめ直し、何ができるかを考え、自ら一步踏み出そうとする気持ちを支える。					
	3	上記2項目や一人ひとりに寄り添う心のケアを通して、生徒が「学校が楽しい」と感じる学校にする。					
【窮理】 について 重点目標 広がりや深まりを自覚できる授業の工夫	4	4視点で授業づくりを行い、深まりが自覚できる授業にする。 ①聞く・受け止める・問いをもつ ②考える・話す(語る)・伝える ③分かり合う ④考えを更新する	◆生徒が「学習ができた、わかった」と感じる学校になっていると思いますか。	20	51	20	9
	5	ICTを活用した「学び方の工夫」がある授業づくりをする。					
	6	「わかる楽しさ」と「できる喜び」を感じる学習環境を整える。					
	7	上記3項目を通して、生徒が「学習ができた、わかった」と感じる学校にする。					
【実践】 について 重点目標 よりよい学校生活を目指して語り合い、自分に返して行動する力の育成	8	よりよい学校生活が何かを生徒同士が語り合い、自分は「日常生活で何ができるか」を考え、実践できる心を育てる。	◆生徒が学校で学んだことを普段の生活に生かしている姿がありますか。	24	50	18	8
	9	自分の将来を見つめ、今できることを積み重ねられる力を育てる。	◆生徒が将来のために今できることを考え行動し、積み重ねて力をつける姿がありますか。	29	43	17	10

令和5年度「学校自己評価(生徒評価)」生活アンケート結果

あなた自身の行動について、数字を記入してください。

4…当てはまる 3…少し当てはまる 2…少し当てはまらない 1…当てはまらない 単位(%)

■生徒自身に対する自己評価

	評価項目	評価(%)			
		4	3	2	1
1	自分は、気持ちの良い挨拶(あいさつ)・会釈(えしゃく)・返事ができている。(実践)	62	30	8	0
		△ 1			
2	自分は、気づきを大切にされた清掃をし、無言清掃を行っている。(実践)	40	42	16	2
		△ 7			
3	自分は、クラスの合唱で自分のもてる力をしっかり出して歌っている。(実践)	53	32	14	1
		△ 4			
4	自分は、ルールで決められている履(は)き物そろえをしている。(実践)	79	16	5	1
		0			
5	自分は、8時15分から読書を始め、時間いっぱい集中して読書ができている。(実践)	63	27	7	3
		△ 5			
6	自分は、生徒会の収集活動に積極的に関わっている。(実践)	39	35	21	5
		△ 4			
7	自分は、友の良さや多様性(たようせい)を認め、仲間を大切にしている。(敬愛)	76	23	0	0
		+ 1			
8	自分は、将来のことを考え、今できることを精一杯がんばっている。(実践)	48	38	11	3
		+ 1			
9	あなたは、前向きに家庭学習に取り組み、宿題や課題等の提出期限を守っている。(窮理)	41	33	18	8
		△ 6			

■学校での学習に対する総合的な満足度

	評価項目	評価(%)			
		4	3	2	1
11	学校の授業は楽しくまたは充実して受けられていますか。(全ての授業を通して)	55	35	9	2
		△ 3			

■学校生活に対する総合的な満足度

	評価項目	評価(%)			
		4	3	2	1
12	あなたは、充実した(楽しい)学校生活を送っていますか。	59	32	8	2
		+ 4			

上段：12月アンケートでその評価件数を回答数で割った数を百分率で示す。

下段：同調査を本年度7月と比較したもの。肯定的意見(3または4)の7月に対する増減(△は減、+は増)を示す。

令和5年度「学校自己評価」分析と考察

I 「敬愛」部門 について

「生徒が『学校が楽しい』と感じる学校になっていると思いますか」では、79%の保護者が肯定的に評価しています。また同類の設問に91%の生徒が肯定的に評価しています(昨年度は92%)。多くの生徒は充実感をもって学校生活を送っていると考えられますが、学級の中には学校生活に不満をもって生活をしている生徒がいることがわかります。学校生活に満足していない生徒に対して、支援を行っていく必要があります。昨年度の同調査では中学生は「相手のことは大切に思っているが、自分が伝えたいことが相手に伝えられない生徒が多い」という傾向があることがわかっています。そのため、学級や学年では語り合いの場を多く設定するなど対策をしてきました。本年度の全国学力学習状況調査の分析から、自分の考えを記述できる力が付いてきていることがわかりました。生徒会の諸活動などで振り返る場面や、学年を越えて合唱を聴き合う場面を通して、思いや考えを相手に伝え、互いを分かり合う力を付けていきたいと考えています。

II 「窮理」部門 について

「学校の授業は楽しくまたは充実して受けられていますか(全ての授業を通して)」では、約90%(昨年度は92%)の生徒が肯定的に評価しており、同類の設問に71%の保護者が肯定的に評価しています。授業が分かりにくいと感じている生徒にどのような学習支援が必要か分析してきました。

生徒向け学習アンケートでは、「問いをもつ」「聞く・尋ねる」「伝える・表現する」「振り返る」の4つの観点について教科別に調査しています。どの教科もおおむね90%を超えた生徒が肯定的に評価していますが、学び合いの深まりを示す「伝える・表現する」の自己評価の項目が他の項目に比べて低くなっています。しかし、本年度は少しずつ向上が見られ、「自分は、自分の疑問や考えを、友や全体に発表したり伝えたりすることができている」では各教科の平均で80%の生徒が肯定的に評価しており、前年度の74%を上回りました。

本年度はオンラインでの授業配信を保護者や生徒の希望に合わせ、段階的に実施してきました。しかし保護者向けアンケートでは登校していない生徒にも平等に学習の機会が欲しいとの記述がありました。不登校傾向の生徒や中間教室に通級している生徒にどのように学びを保障していくかについて研究していきます。

III 「実践」部門 について

- 1 「学んだことを生かす」、「行動を積み重ねて力を付ける」など明倫の心の出口に関わる内容に相当します。「生徒が将来のために今できることを考え行動し、積み重ねて力を付ける姿がありますか」では72%の保護者が肯定的に評価しています。これは他の項目と比べて低めの評価になっています。今できることを積み重ねる活動して、本校生徒会では「あいさつ」「靴そろえ」「朝読書」「清掃」「収集活動」「合唱」を大切にす活動と決めだし、職員も同じ方向で指導しています。しかし、生徒向け自己評価では、自身の姿が目標に達していないと判断している生徒も多くなっています。また保護者アンケートからも「生活面が乱れており、指導が徹底されていない」というご意見がありました。本校では3年生から下級生が学ぶ(また互いに学ぶ)縦割活動が効果的にはたらくことがわかっています。中学生としてこれからもよいものを受け継げるよう来年度も清掃、収集活動、合唱など様々な場面で縦割活動を設定していき、二中の文化は中学生がつくっていく理念を大切にしていきたいと考えています。